演習テーマ 中山間地域の食文化とライフスタイルを知る（安芸高田市）

教 員 主担当：社会連携センター 三上賢治、
副担当：情報科学部 中山仁史、情報科学部 岩根典之
学 生 国際学部 安達彩花、伊藤和希、今村伽奈子、大野正太郎、片井菜摘、菅野一路、小西沙耶、茶山菜々子、服部未歩、花野志帆、宮内沙也佳、森彩花、原田紗希
芸術学部 尾嵜美歩、草地里帆、久米千裕、三坂笑花

地域課題演習 上関チーム
～スローな観光は可能か～
1. 実地調査前
「上関でスローな観光は可能か」を検証
現地調査の実施
みんな良いね
現在の上関
2. 実地調査後
3つの惜しい点
上関でスローな観光は可能

地(知)の拠点
広島市立大学
平成29年度 地域課題演習
演習テーマ⑥
尾道の歴史や文化を感じる（尾道）
学習の概要
1. 国際芸術文化都市を目指す尾道の歴史を学習する。
2. 尾道の町並みを保存・再生しようとする行政・市民の活動の一端に触れる。
尾道のイメージ
現地で行いたいこと
現地講座 （6月10日 10時00分～）
テーマ「尾道の歴史について」
尾道市文化振興課主任 西井学芸員
「人はなぜ尾道に惹せられるのか？」
1 古くからある寺院や神社
2 川のような海（尾道水道）
3 坂道の家や路地
街並み・景観政策の楽しさ
現地解説 （6月10日 11時30分～）
テーマ「尾道の街並みの形成と文化財について」
尾道市文化振興課主任 西井学芸員
成果（チーム A）
成果（チーム B）
現地で感じたこと：まとめ

■資料－4　参加校による協働研究事業の実施結果（平成 29 年度・概要）

学校名	**広島大学**
事業名 （プロジェクト名）	**宮島の森林植生の現状把握のための基礎研究** －天然記念物弥山原始林およびその周辺の植生について－
実施対象地域	市町名　廿日市市　（地区名　宮島　）
事業概要	弥山原始林および弥山周辺の森林植生は、嚴島神社を中心とする歴史的・文化的資源と一体となって世界遺産を構成する要素である。その文化的・教育的価値を認識するとともに、宮島の価値・魅力を総合的に高めていくことを目標に、自然環境の保全・活用のあり方について検討・提案することを目的とする。 本事業は、長年、宮島において活動を行っている理学研究科附属宮島自然植物実験所の参加を得て、上記のための検討を行うとともに、自然環境の価値を広く周知していくための活動を行うものである。
事業の協働機関 （広島市立大学を除く）	廿日市市立宮島小・中学校、広島森林管理署、宮島ロープウエー、一般社団法人宮島ネイチャー構想推進協議会、広島県勤労者山岳連盟女性委員会、宮島弥山を守る会
実施内容 （実績）	**1. 弥山原始林およびその周辺の植生の現状把握と保全を目的とした植物社会学および保全生物学に関する研究** 本研究では、2017 年 4 月から 12 月にかけて、宮島島内の各所に 10 m x 10 m を基準として一定面積の調査地（スタンド）を約 100 か所設定し、スタンド内に出現する植物種のリストを作成し、それぞれの種が占める割合を評価した。このような区画を複数調査して、種の有無等にもとづいて比較を行った。また、代表的な種について地理情報システム（GIS）を使って分布状況を推定した。一方、宮島島内やその対岸で植物相を調査するとともに、証拠標本を作製した。採集した植物の一部について葉や花の組織から DNA を抽出し、PCR 法で目的領域を増幅してシークエンスを行い、各植物種の塩基配列を決定した。実験に使用した植物は標本として収蔵してデータベース化するとともに、それぞれの標本から得られた塩基配列データを使って DNA バーコーディングライブラリ構築を進めた。また、2018 年 3 月には獅子岩駅周辺の荒廃した植生の回復事業も関係機関・団体とともに実施した。 **2. 外来種も含めた植物にニホンジカが与える影響に関する研究** 本研究では、2017 年 8 月から 2018 年 2 月にかけて、外来種が出現する可能性の高い場所を調査地として調査を行った。宮島島内の各所に一定面積の調査地（スタンド）を設定し、スタンド内に出現する植物種のリストを作成し、それぞれの種が占める割合を評価した。また、地図上に分布をプロットするとともに、各個体の樹高や胸高直径を記録してその侵入の時期や更新の有無を評価した。
実施により 得られた成果	**1. 弥山原始林およびその周辺の植生の現状把握と保全を目的とした植物社会学および保全生物学に関する研究** 弥山原始林およびその周辺の植生について植物社会学的なデータを使ってクラスター解析を行ったところ、高度 200 m 以上の林域については 1970 年代と比較して大きな変化はみられず、それ以下の場所では遷移の進行が原因と考えられる変化が確認された。また、代表種の分布を GIS により推定したところ、アカガシやウラジロガシの分布の傾向に違いがあることを裏付けることができた。これらと並行して、野外で採集した植物標本や標本庫に収蔵されている標本を使って DNA バーコーディングライブラリの構築を進めることができた。本研究で得られた成果は、宮島において保護すべき植物種の把握、宮島に存在する生物多様性の把握など、宮島の自然を守るための基礎情報としての活用が期待される。 **2. 外来種も含めた植物にニホンジカが与える影響に関する研究** 宮島島内で中国原産の木本植物であるナンキンハゼが確認され、100 本以上が生育していることが分かった。また、開花・結実が確認されたため、宮島島内で更新を行っている可能性が高い。奈良の春日山原始林の先行研究の例でも問題になっている樹種であるため、今後追跡調査が必要である。この内容の一部については学生が第 1 著者の形で論文発表済みである。また、廿日市市および森林管理署に対してすでに情報を提供して注意喚起を行うとともに、2018 年度にさらに詳細な調査を行う予定である。 **実施による地元への成果還元・学生への影響** この事業の実施により、宮島の自然環境の価値・魅力を再認識することができただけでなく、地域の行政に対して保全のための重要な情報が提供できた。また、学生に対しては野外調査をはじめた研究手法の習得の機会になるとともに、論文の形で報告する過程で大きな教育効果が得られた。さらに、3 月に行った獅子岩駅周辺の植生回復事業では、研究で得られた知見を反映させることができるとともに、学生だけでなく地元の中学生も参加することで、宮島の自然環境の保全とその価値を広く周知していくための活動を行うことができた。

実施経費	761,076 円
実施・成果に係る印刷物等	**論文** 諸石智大・坪田博美.　2017.　広島の帰化植物 8. 広島県宮島で生育が確認された外来木本ナンキンハゼ.　Hikobia 17: 219-224.

担当教員	学部・職名・氏名	大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所・准教授・ 坪田　博美
事務担当者	所属・職名・氏名	社会産学連携グループ・グループ員・稲鍵　拓人
	電話番号	082-424-4312
	Fax	082-424-6189
	e－mail	syakai-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

実施内容の写真

調査の様子

植栽に利用した宮島産種子由来の苗

調査の様子

獅子岩駅周辺の植生回復事業

新たに生育が確認された外来種（ナンキンハゼ）

ナンキンハゼの果実

学校名	**尾道市立大学**
事業名 （プロジェクト名）	**アートプロジェクトの実施**
実施対象地域	市町名　尾道市　　（地区名　　）
事業概要	広島市立大学 COC+の事業地域内で行うアートプロジェクトの一つとして、広島市立大学の学生が尾道の歴史や現状、地域特性についてのリサーチを重ね、作品を制作し、展示を行う。
事業の協働機関 （広島市立大学を除く）	AIR Onomichi、光明寺會館
実施内容 （実績）	**・事前レクチャー1回目（8月）** 学生 14 人、引率教員 2 人 ガイダンス・光明寺会館見学 小野スライドレクチャー「空き家再生と美術活動」 尾道について　歴史的背景　空き家再生　活動手法 AIR 活動の背景と活動内容紹介 AIR サイト見学 土嚢の会体験　少し荷揚げ作業　岩間サイト 空き家ツアー（みはらし亭、あなごのねどこ、洋館群、ガウディハウス） **・事前レクチャー2回目（10月）** 学生 13 人、引率教員 2 人 尾道市立美術館、3 号倉庫見学 光明寺會館にてガイダンス 3 サイトに分かれてアーティストの手伝いなど 横谷奈歩：会場設営、清掃環境整備 シュシ・スライマン：アーカイブルーム木工作業 光明寺會館での木工作業、設営作業 街中散策 **・尾道プロジェクト「パンドラの匣庭」展の開催** 期間：2月23日（金）～3月1日（木） 場所：光明寺會館と尾道旧市街斜面地の空き家 広島市立大学の教員学生15組のアーティストが参加し、尾道におけるリサーチの成果を作品展示という形で提示した。23 日のオープニングでは参加アーティストがギャラリートークを行った。

実施により 得られた成果	・ **地域の抱える課題に対する理解の促進** 尾道旧市街斜面地の AIR Onomichi および空き家再生プロジェクトに関するレクチャーと町歩きで広島市立大学の学生が尾道旧市街の歴史的背景と現在抱えている問題、それに対する取り組みについての理解を深めることができた。 ・ **現場作業の体験** 参加学生がレクチャー・視察だけでなく、実際にアーティストの制作や作品設置の手伝いをしながら物資の運搬や木工、環境整備などの作業も行ったので尾道旧市街斜面地独自の環境の持つ条件に対するより深い理解が得られた。また、その場の状況に対するアーティストのアプローチに触れることができた。 ・ **環境整備** 展示準備に伴って、空き家周辺の導線を整え、それが荒廃していたエリアの環境整備につながった。参加学生にとって、広島とは全く異なる場所性に触れ、実際に活動することで、異なる場に触れる良い機会となった。 ・ **学生間交流の促進** 特にオープニングのギャラリートークには広島市立大学関係の学生・教員および、尾道市立大学の学生教員なども集まったので、良い意見交換・交流機会となっていた。（約 40 名が参加） ・ 展示 光明寺會館の2階と改修作業中の半屋外の空き家という 2 つのサイトで展示を行ったため、展示を行った学生にとって、普段の環境が整った状況とは違い、場所の特質と直接的に対話する良い機会となった。
実施経費	750,381 円
実施・成果に係る 印刷物等	尾道プロジェクト「パンドラの匣庭」展フライヤー 山陽日日新聞　2018年2月24日掲載

担当教員	学部・職名・氏名	芸術文化学部美術学科・准教授・小野　環
事務担当者	所属・職名・氏名	企画広報室・主任・森下　育哉
	電話番号	0848-22-8311
	Fax	0848-22-5460
	e－mail	kikakukouhou@onomichi-u.ac.jp

実施内容の写真

スライドレクチャー

作業の様子

展示の準備

「パンドラの匣庭」展　展示(1)

「パンドラの匣庭」展　展示(2)

「パンドラの匣庭」展　オープニング

学校名	**広島経済大学**
事業名 (プロジェクト名)	**観光振興による「海の国際文化生活圏」創生に向けた人材育成事業** (学生による観光資源等の再発見と発信)
実施対象地域	①広島県廿日市市宮島町 ②広島県呉市下蒲刈町および山口県熊毛郡上関町 ③瀬戸内海地域の戦跡地　広島市　呉市　廿日市市など(H30 年度事業の予備調査)
事業概要	**①広島県廿日市市宮島町** **本学興動館　宮島の魅力を発信したい学生プロジェクトによる事業** ・宮島の魅力を発信したい学生プロジェクトは、世界遺産である宮島の隠れた魅力を「学生目線」、「若者目線」で発掘・発信することを活動目的としている。 **②広島県呉市下蒲刈町および山口県熊毛郡上関町** **本学興動館　若旅促進プロジェクトによる事業** ・朝鮮通信使の縁(ゆかり)の地や姉妹都市提携など、つながりが多い広島県と韓国との関係の中で、広島県内を訪れる韓国人旅行者が非常に少ない現状(日本政府観光局調査より)を打破するために、広島瀬戸内海地域の魅力を再発見し、両国の若者を対象にした日韓交友のツアーを計画し、旅行業界に向け提案する。 **③瀬戸内海地域の戦跡地調査(平成 30 年度事業の予備調査)** ・広島瀬戸内海地域に点在する戦跡地をマップにまとめ、ダークツーリズムの発信を行う。現地を訪れる観光客への歴史や知識、文化の伝承を事業目的としている。 事業名(仮称):広島瀬戸内海地域のダークツーリズムの発信-戦跡マップの製作-
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	①NPO 法人　宮島ネットワーク ②国土交通省中国運輸局、駐広島大韓民国総領事館、NPO　法人　朝鮮通信使縁地連絡協議会、広島ユネスコ協会、JTB 中国
実施内容 (実績)	**①宮島の魅力を発信したい学生プロジェクト(広島県廿日市市宮島町)** ・平成 27、28 年と同様に、NPO 法人　宮島ネットワークと連携した『宮島今むかし写真展＆宮島伝統工芸作品展』を開催(11 月、来場者 2,347 名)。あわせて平成 28 年 11 月に発行した『宮島なび　vol.1』の続編となる『同　vol.2』を発行。当初、『同　vol.3』として発行を予定にしていた冊子は、外国人観光客向けの冊子として発行。 **②若旅促進プロジェクト(広島県呉市下蒲刈町および山口県熊毛郡上関町)** ・これまで行ってきた広島県呉市下蒲刈町地区での朝鮮通信使に関する文化交流、ツアーの計画をさらに発展させ、山口県熊毛郡上関町でも活動を展開。韓国嶺南大学の教職員や学生を誘致することで文化継承や地域振興に更なる磨きをかける。 ・朝鮮通信使に縁(ゆかり)がある地域を訪ねるツアーを実施。蘭島文化財団主催の朝鮮通信使パレードに参加(10 月)。 ・毎年度末には学生が企画したツアーの商品化を目指し、JTB　などの旅行業界を対象としたプレゼンテーションを実施している(3 月)。 **③瀬戸内海地域の戦跡地調査(広島県呉市)** ・平成　30　年度に向けた予備調査として、本学経済学部　竹林　栄治　准教授が呉市の現地視察を行った。加えて、「Geheimmissionen der japanischen und deutschen U-Boote im Zweiten Weltkrieg —Begleitend zur Exkursion über die geheimen U-Bootmissionen und die Ruinen der kaiserlichen Marine in der Militärhafenstadt Kure in der Präfektur Hiroshima—(第二次世界大戦における遺独潜水艦作戦—遺独潜水艦作戦と呉市の海軍遺構を実地見学するための手引き—)」を執筆。広島経済大学研究論集第 40 巻　第 2 号(平成 29 年 9 月　広島経済大学経済学会)に掲載。

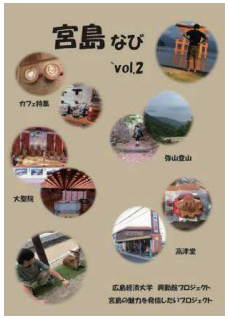
実施により 得られた成果	**①宮島の魅力を発信したい学生プロジェクト(広島県廿日市市宮島町)** NPO 法人 宮島ネットワークと協力して、「宮島今むかし写真展＆宮島伝統工芸作品展」に参画。写真展は本学成風館にて、2017 年 11 月 18 日(土)～11 月 27 日(木・祝)で開催。今年度は本学書道部による書道パフォーマンスやモザイクアートを取り入れるなど、観光客の動員に向けて工夫を凝らした写真展を実施。当日は昨年度の 1,061 名を大きく上回る 2,347 名が来場。来場者に、宮島の魅力を存分に伝えることに成功した。また、宮島の魅力を発信するツールとして、2 冊の冊子を発行。特に外国人観光客を対象とした「Look at me」は SNS による魅力発信をテーマに、随所に工夫が成されている。 **②若旅促進プロジェクト(広島県呉市下蒲刈町および山口県熊毛郡上関町)** 今年度、世界記憶遺産に登録された朝鮮通信使。現地にて、その再現行列に参加した(2017 年 10 月 14 日(土)～10 月 15 日(日))。加えて当日は、韓国の嶺南大学からの留学生と共に現地を視察。松濤園などを拝観し、観光地としての魅力を日韓双方の視点で再確認することができた。年度末には本学立町キャンパスにて、中国運輸局協力の下、旅行会社各社への「日韓交流ツアー」のプレゼンテーションを実施。ツアーの商品化に向けて、中国運輸局および旅行会社各社から貴重な意見を伺うことができた。 **③瀬戸内海地域の戦跡地調査(広島県呉市)** 平成 30 年度に事業展開を予定している戦跡地マップによるダークツーリズムの発信。平成 29 年度はその予備調査として、呉市を対象に本学経済学部 竹林 栄治准教授が現地視察を行った。当日は、呉海軍工廠やその軍需部倉庫群、大和ミュージアム、呉市海事歴史科学館などを調査し、平成 30 年度に向けた情報収集、アイディア構築を充分に達成することができた。加えて、実施内容(実績)に記載した資料も執筆することができた。 平成 30 年度は戦跡地マップ制作だけでなく、貸し切り市内路面電車による広島市内ダークツーリズム(仮称)の実施を検討している。
実施経費	649,734 円
実施・成果に係る 印刷物等	**①宮島の魅力を発信したい学生プロジェクト(広島県廿日市市宮島町)** ・冊子「宮島なび～Vol.2」 ・冊子「Look at me」 ・新聞掲載:中国新聞 平成 30 年 4 月 24 日付 21 面(外国人向けに宮島観光冊子 広島経済大生が作成) ・ラジオ出演:FMはつかいち 平成 30 年 4 月 30 日(10:10～10:35) 興動館プロジェクト 宮島の魅力を発信したい学生プロジェクト

担当教員	学部・職名・氏名	経済学部 教授 濵田 敏彦(ハマダ トシヒコ) 経済学部 教授 川村 健一(カワムラ ケンイチ) 経済学部 准教授 竹林 栄治(タケバヤシ エイジ)
事務担当者	所属・職名・氏名	教育・学習支援センター・主任・西國 真一(サイゴク シンイチ)
	電話番号	082-871-9345
	Fax	082-871-1021
	e－mail	sn-sai@hue.ac.jp

実施内容の写真

①宮島の魅力を発信したい学生プロジェクト(広島県廿日市市宮島町)

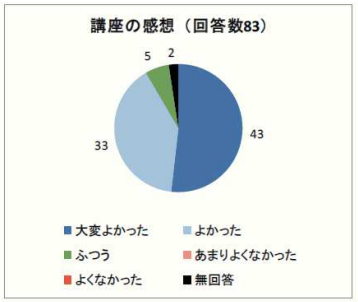
・写真展の様子と冊子 2 冊の表紙



②若旅促進プロジェクト(広島県呉市下蒲刈町および山口県熊毛郡上関町)

・朝鮮通信使の足跡を辿る瀬戸内ツアーと朝鮮通信使パレードとの様子

学校名	**広島工業大学**
事業名 （プロジェクト名）	**宮島・土曜講座**
実施対象地域	廿日市市
事業概要	広島工業大学プロジェクト研究センター「地域保全まちづくり研究センター」の研究成果の発信を核として、広島工業大学教員と外部講師により、「まちづくり」 に関連する講座を展開する。月1回(6月～11月)の講座では、講師による「講話」と、講師及び参加者同士の「対話」を交えて講座テーマの共有と理解を高めていく。
事業の協働機関 （広島市立大学を除く）	廿日市市
実施内容 （実績）	**○第1回:「宮島口のまちづくりについて」** 6月17日(土)13:30～15:30(会場:宮島ｺｰﾗﾙﾎﾃﾙ、現地見学) 87名参加 **○第 2回:「重伝建地区制度の役割とまちづくり―湯浅町湯浅(和歌山県)の事例から―」** 7月15日(土)13:30～15:30(会場:宮島こもん) 42名参加 **○第3回:「地(知)の拠点事業 COC+と宮島」** 8月19日(土)13:30～15:30(会場:広島市立大学・ｻﾃﾗｲﾄﾊｳｽ宮島) 23名参加 **○第4回:「興動館教育プログラムの試み ～学生と地域社会との関わり～」** 9月6日(土)13:30～15:30(会場:広島経済大学・成風館) 16名参加 **○第5回:「街並み整備と景観まちづくり ～都市計画遺産の可能性～」** 10月21日(土)13:30～15:30(会場:宮島こもん) 15名参加 **○第6回:「まちづくりのマネジメントと大学生の挑戦**(13:30～15:30)**」** **「宮島・土曜講座 2017 を振り返って**(15:30～16:00)**」** 11月25日(土)13:30～16:00(会場:宮島こもん) 14名参加 **○大学連携による学生の観光に関する研究・活動発表会への参加** 12月16(土)、17(日) 学生2組 5名発表

実施により得られた成果	講座参加者の感想(回答数 83 名)について「大変よかった」「よかった」と 76 名が回答しており、良い評価を得ることができた。講座参加者のべ226名のうち41名が学生の参加者であり、宮島や国内外のまちづくり事例について理解が深まった旨の感想を得た。また、廿日市市役所らものべ21名の参加があり、地元自治体との連携を深める役割を担った。  関連行事として実施した「オープンこもん」(6～11 月の月 1 回)では参加者のべ 73 名中43 名の学生の参加があり、「卒業研究」や「地域課題解決実習」に関する情報提供などを行い、卒業論文 4 件、実習報告 1 件の成果に対する支援を行うことができた。

実施経費	750,600円
実施・成果に係る印刷物等	①「宮島・土曜講座 2017」チラシ ②「宮島・土曜講座 2017」報告書

担当教員	学部・職名・氏名	工学部・教授・伊藤 雅
事務担当者	所属・職名・氏名	地域連携推進室・サブリーダー・佐藤 隆
	電話番号	082-921-4222
	Fax	082-921-8963
	e－mail	c-renkei@it-hiroshima.ac.jp

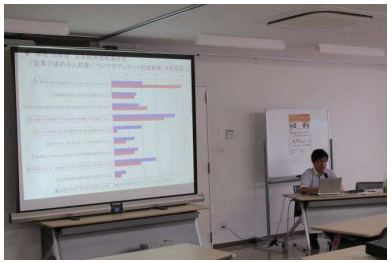
実施内容の写真

○第 1 回:「宮島口のまちづくりについて」

○第 2 回:「重伝建地区制度の役割とまちづくり―湯浅町湯浅(和歌山県)の事例から―」

○第 3 回:「地(知)の拠点事業 COC+と宮島」

○第 4 回:「興動館教育プログラムの試み ～学生と地域社会との関わり～」



○第 5 回:「街並み整備と景観まちづくり ～都市計画遺産の可能性～」

○第 6 回:「まちづくりのマネジメントと大学生の挑戦」
「宮島・土曜講座 2017 を振り返って」

○大学連携による学生の観光に関する研究・活動発表会への参加

学校名	**広島国際大学**
事業名 （プロジェクト名）	**中山間地域と島しょ部間の交流による地域活性化プロジェクト**
実施対象地域	山県郡安芸太田町四合地区、呉市豊島地区ならびに東広島市黒瀬地区
事業概要	四合地区、豊島地区は三段峡や島しょ部で観光地として高まりを見せているが、実は高齢化率が非常に高い。これらの地域の住民の“健康づくり”を促進すると共に二つの地区の交流を図ることにより、相乗的な活性化効果をもたらすことを目的とする。また、二つの地区に関する情報発信に益することを目的 に既にサロンを実施している東広島市黒瀬町丸山地区との交流も取り入れる。
事業の協働機関 （広島市立大学を除く）	安芸太田町・町社協、呉市豊浜市民センター、東広島市社協ならびに黒瀬支所
実施内容 （実績）	**＜安芸太田町での事業実施内容＞** 1.平成 29 年7 月8 日、第6 回三和サロンを開催。3 つの自治会から 25 名、社協1 名、集落支援員 1 名、児童 1 名、教員 1 名、学生 10 名で開催。影絵の制作に入る前の手始めとして、教員が制作した「神楽面」の下絵をもとに切り絵を実際にして頂き、皆さんがどの程度の切り絵が可能かをアセスメントした。 2.平成 29 年10 月21 日、第7 回三和サロンを開催。3 つの自治会から 15 名、社協 1 名、集落支援員 1 名、児童 2 名、本学教職員 2 名、学生 5 名で開催。影絵のシナリオを基に教員が制作した下絵 55 枚(各2 部)を持ち込み、地域の方一人当たり 3，4 枚の切り絵の制作をお願いし、制作を始める。今回は切り絵1 枚を完成させるだけにとどまったため、残りの複数枚については次回のサロン開催時までに各自、自宅で切り絵の制作を行い、完成させておくこととした 。 3.平成30年2 月14日、第8 回三和サロンを開催。3 つの自治会から 21 名、社協 1 名、児童2 名、本学教員 1 名、学生6 名で開催。前回以降各自が制作した切り絵を持参し、切り終えたものについては色セロファンを貼りつけ、切り終えていないものについては切り絵の作業を進める。 4. 平成 30 年3 月17 日、第 9 回三和サロンを開催。3 つの自治会から 14 名、社協1 名、集落支援員 1 名、児童 1 名、本学教員1名、学生 4 名で開催。すべて切り終えた切り絵に色セロファンを貼りつける作業を行った。出来上がったものもかなりの部分手直しが必要であるため、大学に持ち帰り手直しを行った。次回(5 月下旬)で制作を終える予定とする。 **＜黒瀬町丸山地区でのサロン＞** 平成 29 年度は毎月 1 度、地域住民の参加は平均 13 名、学生は平均 8 名、教員1名の参加のもとにサロンを開催している。 **＜豊島地区での 3 サロン合同イベントの開催＞** 平成 29 年11 月11 日、呉市豊島の豊浜ふれあい会館にて安芸太田町、黒瀬町丸山、豊島の 3 地区の合同イベントを開催。豊島 20 名、安芸太田町 20 名、黒瀬町丸山 15 名、学生 13 名、本学教職員 4 名、社協 4 名、豊島市民センター職員 3 名の参加があった。豊島散策。その間、それぞれから持ち込んだ食材を使い、学生と地元の方とで食事を作る。その後昼食をとりながらの交流を行い、続いて健康体操、認知症予防のゲームなどを行った。交流会に参加された方たちはもとより協力学生には非常に好評で、次年度以降、3 地区持ち回りで開催することとなる。
実施により 得られた成果	量的な調査を行っていないため、事業実施による住民・学生双方に対する成果を具体的な数値で示すことはできないが、以下のような成果を上げたと考える。 地域住民からの要望を受けて“健康”相談会を実施したり、筋力体操・認知症予防訓練を通しての学生との交流を通じて、少なからず地域住民の“精神的” 健康の促進ならびに学生に・住民双方にとっての存在価値の再確認の効果があったものと考えられる。また、地域に伝わる伝承を影絵などで残し、集落がなくなっても語り継いで行ってもいたいという要望を具現化するため、伝承されている内容をふまえたシナリオをつくり、それを基に影絵の制作に取り組み始めた。また、これまで限界集落化している 3 つの集落の住民にとっても、また、黒瀬町丸山地区の住民にとっても、“他”の自治体住民との交流を楽しみにし、平成29 年度11 月には三和サロン（限界集落地区）丸〇サロン（農村部）豊島(離島)の 3 つのサロンの合同イベントを開催した。これらのことを鑑みると、本事業実施により住民・学生の双方にとってWHOの言う“健康”を促す効果が見られていると考える。
実施経費	284,000 円
実施・成果に係る 印刷物等	1.神とたたら（仮題）：再修正版 2.広島国際大学がつなぐ『3 町合同サロン』予定表

担当教員	学部・職名・氏名	医療福祉学部・教授・吉川 眞
事務担当者	所属・職名・氏名	研究支援・社会連携センター　　林 賢宏
	電話番号	0823-69-6034
	Fax	0823-70-4931
	e－mail	HAYASHI.Yoshihiro@josho.ac.jp

実施内容の写真

三和サロン：学生による健康相談

三和サロン：切り絵に取り組む

三サロン合同イベント：豊島散策

三サロン合同イベント：健康体操

三和サロン：影絵製作

丸〇サロン：認知症予防のための訓練

学校名	**広島修道大学**
事業名 （プロジェクト名）	**観光振興による「海の国際文化生活圏」創生に向けた人材育成事業** **もとまちカフェ**
実施対象地域	自治体名　広島市　　地区名　中区基町
事業概要	広島市中区と広島市立大学(COC+主催校)がおこなう「基町プロジェクト」の 1 企画である「もとまちカフェ」に本学も 2015 年度から協力し、2016 年度からは共同主催で実施している。 　基町高層アパートの活性化を目指す「基町プロジェクト」のなかで、「もとまちカフェ」は基町高層アパート本来のあり方や魅力を体験し知ってもらうこと、住人やコミュニティ（内の人）と基町への来訪者（外の人）をつなぐ架け橋となることを目的に行っているプロジェクトである。 今年度は出張もとまちカフェを数回行い、もとまちカフェまた基町高層アパートの魅力を外部の方へ発信することに重点を置き、両大学、ポップラ広場におけるお祭り「砂持加勢祭り」、中央公園のもとまち自由広場という子どもを対象としたイベントにも出向いた。 現在は年度末の基町内での交流促進イベントの準備を行っている。
事業の協働機関 （広島市立大学を除く）	広島市中区役所
実施内容 （実績）	4 月～11 月　実施に向けて定例会（週1回） 6 月 19 日～26 日　「もとまちカフェ展」実施 6 月 26 日（月）　もとまちカフェ空間実演（12:15～13:00） 11 月 25 日（土）11:00～14:00　「黒板カフェ」実施 10 月 1 日（日）10:30～15:00 ポップラ広場における「砂持加勢祭り」参加
実施により 得られた成果	今年度の目標は、”基町の内の人と外の人をつなぐ”という全体コンセプトのもと、外の人がもっと基町に来る機会を増やそうと広島市立大学の学生と広島修道大学の学生が共同で幾つかのチームに分かれて企画を練って実施した。 ・「もとまちカフェ展」 日時：2017 年 6 月 19 日～26 日 場所：広島修道大学図書館エントランスホール及び協創館（8 号館前広場） 6 月 26 日（月）もとまちカフェ空間実演（12:15～13:00） 会場：広島修道大学　協創館前（屋外）

	「もとまちカフェ」を広く知ってもらうために、6 月 19 日～26 日まで、広島修道大学図書館エントランスホールにて「もとまちカフェ展」を開催した。 また、地域内外に人的交流を創り出し、「基町の内と外を繋ぐ」ことを目的とする広島市立大学と本学の学生チームが主体となった取り組みです。 　また、最終日の 6 月 26 日には、基町高層アパートで実際に提供した空間を再現し、「もとまちカフェ」で使用した移動式ブース等で飲食物の提供を行ない、学生が行っているプロジェクトを体験してもらった。 　来場者：270 名　カフェ 200 名 プロジェクトメンバーが基町で育てたハーブが香る「もとまちレモンソーダ」は好評で、あっという間に無くなりました。また、ドリンクを提供するだけでなく、ドリンクを飲んでいる学生に活動の目的や基町の紹介を行ない、修大生に「もとまちカフェ」の活動を知ってもらう良い機会になった。 ・こくばんカフェ実施 　日時：2017 年 11 月 25 日（土）11：00～14：00 　場所：もとまち自遊ひろば もとまち地区の他団体と共同で行った。それぞれの活動を尊重し、それぞれの活動を参加者に PR できた。 ・砂持加勢祭り　もとまちカフェ出店 　日時：2017 年 10 月 1 日（日）10：30～15：00 　場所：中央公園西側　河岸緑地（基町ポップラ通り） 近隣のコミュニティと交流をもち、もとまちカフェを知ってもらうこと、地域住民とコミュニケーションを取ることができた。
実施経費	517,538 円
実施・成果に係る印刷物等	

担当教員	学部・職名・氏名	地域イノベーション教育担当教員／人間環境学部　講師 木原一郎
事務担当者	所属・職名・氏名	ひろしま未来協創センター　課長　佐伯美栄子
	電話番号	082-830-1114
	Fax	082-830-1932
	e－mail	m-saeki@js.shudo-u.ac.jp

実施内容の写真

学生が作成したチラシ

定例会の様子（本学ひろみらエントランススクエア）

定例会の様子（広島市立大学）

広島修道大学図書館展示の準備

学校名	**安田女子大学**
事業名 （プロジェクト名）	**「グローカルキッチンプロジェクト」への参画**
実施対象地域	市町名　広島市　　（地区名　広島市中区基町地区）
事業概要	広島市立大学が実施している「基町プロジェクト」の一環で、基町中央商店会内の空き店舗を活用し、「食」関連のイベントを行う「グローカルキッチンプロジェクト」に参画。「食」を通じて、基町地区コミュニティの活性化や新たな交流の場を創出することを目的とする。 今年度は、10 月 1 日（日）に「薄味でもおいしい減塩料理と腸内環境を整える料理」、11 月 26 日（日）に「地産地消のクッキング」をテーマとして本学家政学部管理栄養学科の教員・学生が料理試食会を実施。実施後に振り返りを行い、継続した活動をめざす。
事業の協働機関 （広島市立大学を除く）	
実施内容 （実績）	7 月：広島市立大学と今年度のプロジェクト実施に向けての打ち合わせ 7 月：実施に向けての準備（7 月末～） 9 月：学内実習室で試作（計2回） 10 月：「第 15 回 グローカルキッチンプロジェクト」実施（10 月 1 日） テ　ー　マ…「薄味でもおいしい減塩料理と腸内環境を整える料理」 メニュー…芋ご飯・根菜類のかき揚げ・鶏肉の味噌焼き・小松菜の煮浸し・黒糖寒天 指導教員…家政学部管理栄養学科　渡邉喜弘准教授 学　　生…家政学部管理栄養学科　11 名 参 加 者…21 名 10 月：活動の振り返り 11 月：「第 25 回 グローカルキッチンプロジェクト」実施（11 月 26 日） テ　ー　マ…「地産地消のクッキング」 メニュー…麦ごはん・肉団子の甘酢あん・かぼちゃチーズサラダ・味噌汁・牛乳寒 指導教員…家政学部管理栄養学科　渡邉喜弘准教授 学　　生…家政学部管理栄養学科　15 名 参 加 者…16 名 11 月：活動の振り返り
実施により 得られた成果	「基町プロジェクト」の主要事業の一つとして立ち上がっている「グローカルキッチンプロジェクト」に、管理栄養学科のある大学として、強みを生かした連携を行うことができた。

実施により 得られた成果	当日は、「健康」をテーマに地域の高齢者の方々を中心として、食を通じた交流を図った。 ■地域（地域の方々）に対しての効果 ・学生たちによる栄養に関するレクチャーで、健康な体を維持するための「食」の大切さをあらためて認識していただくことができた。 ・食欲増進のために、それぞれの料理で味に変化を加えるなど、飽きずに美味しく食べる調理の工夫を試食により実感していただくことができた。 ・若い人たちや地域の方々と集い、食卓を囲むことができて嬉しかったとの感想をいただいた。 ■学生に対しての効果 ・地域での交流を通じて、学生一人ひとりが地域の課題に向き合い、主体的に考え、行動する力を養うことができた。 ・事前の準備から当日の調理までを通して、自分たちが調理したものを食べていただく喜びを感じることができた。 ・11/26 の回では、新たな試みとして低栄養予防に関するプレゼンテーションを行った。高齢者の方々にわかりやすく伝えるため、説明内容や発表方法などを工夫し、表現する力を高めることができた。当日の発表では、聴衆の反応を直接感じ取れ、今後の学びに生かすことができる貴重な経験となった。 基町地区については、日ごろ学生が立ち寄ることは少ない地域であるが、このプロジェクトを通して、その地域に住む方を身近に感じる機会になり、また地域の方々も学生との会話を楽しまれ、基町地区コミュニティ活性化の観点において、こうした活動の継続が寄与することを確認する機会となった。
実施経費	70,000 円
実施・成果に係る 印刷物等	■実施に係る印刷物等 ＜10 月 1 日実施＞ 1.パンフレット（メニュー・レシピ・食物繊維について・腸内環境について） 2.アンケート ＜11 月 26 日実施＞ 1.パンフレット（メニュー・レシピ・地産地消について） 2.低栄養に関するレクチャー用資料（模造紙を使用したプレゼンテーション） ■成果に係る印刷物等 ＜10 月 1 日実施＞ 1.アンケート結果

担当教員	学部・職名・氏名	家政学部管理栄養学科・准教授・渡邉 喜弘
事務担当者	所属・職名・氏名	学長室・課長・安田馨
	電話番号	082-878-9980
	Fax	082-878-8408
	e－mail	gakuchositu@yasuda-u.ac.jp

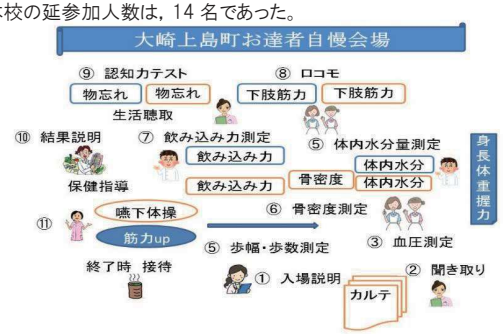
実施内容の写真

平成 29 年 9 月 16 日（土）学内実習室での試作

平成 29 年 9 月 30 日（土）学内実習室での試作

平成 29 年 10 月 1 日(日)第 15 回 グローカルキッチンプロジェクト

平成 29 年 11 月 26 日(日)第 25 回 グローカルキッチンプロジェクト

学校名	**広島商船高等専門学校**
事業名 (プロジェクト名)	**高齢者健康調査(企画名:お達者自慢)**
実施対象地域	市町名 大崎上島町　　(地区名 大崎上島　　)
事業概要	大崎上島町の抱える「急速な少子高齢化問題を中心とした離島地域の課題解決」へ協力するため，広島文化学園大学と大崎上島町が健康増進プログラムに係る連携協力に関する協定を締結している。広島文化学園大学と本校も同様に協定を締結し，広島文化学園大学と連携して大崎上島の高齢者の健康増進プログラムを実施している。具体的には，大崎上島町内の 3 地区において高齢者を中心とした住民の健康実態調査･意識調査を実施している。高齢者の身体的機能の維持･低下予防ができれば，骨折などによる寝たきりの防止や高齢者の自立した生活が期待できるとともに，介護保険料と医療費の削減が見込まれ，自治体の介護費用の激増に対する抑制策となる。また，参加した学生は，活動を通して日々の教育活動への動機づけになる成功体験や，コミュニケーションの大切さに気付き，専門性を生かした地域貢献への意識が向上する。本プログラムの実施は，平成 29 年度で 4 年目となっている。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	大崎上島町 保健衛生課･総務企画課，広島文化学園大学
実施内容 (実績)	平成 30 年 1 月 27 日(大崎上島開発総合センター)，2 月 10 日(木江会館)，2 月 24 日(東野文化センター)に，住民の健康実態調査･意識調査を「平成 29 年度げんき度測定会 大崎上島お達者自慢」と題して実施した。全参加者数は，82 名であった。調査内容は，体内水分量，下肢筋力，骨密度，認知機能，嚥下機能等の体力測定と生活習慣等の聞き取り調査で，最後に調査結果をもとに正常値の人には状態を維持する指導を，異常値のある人には保健指導を行った。健康調査会場配置を図1に示す。体力測定と聞き取り調査は，広島文化学園大学の学生が中心となって行った。参加学生数は 113 名であり，延教員数は 32 名であった。本校学生と教員は，測定機器の運搬，会場設営，休憩場所の運営や体重，身長及び握力の測定等で参加した。本校の延参加人数は，14 名であった。  図 1 健康調査会場配置

実施により 得られた成果	大崎上島と広島文化学園大学と連携して健康増進プログラムを実施し，大学や高専・自治体・地域住民が相互に連携して継続的に一体となって課題解決に取り組む意識を共有でき，協力体制の構築が可能となった。 参加した学生は，高齢者を中心とした住民の健康実態調査・意識調査を行う人材育成プログラムの計画・実施により，地域住民が抱える課題探究を図るだけでなく，活動を通して日々の教育活動への動機づけになる成功体験や，コミュニケーションの大切さに気付き，専門性を生かした地域貢献への意識が向上した。 また，健康増進プログラムの活動を通して，地域住民の方々との交流が深まると共にコミュニケーションの大切さに気付く機会となった。
実施経費	750,000 円
実施・成果に係る 印刷物等	①ポスター，全戸配布チラシ ②離島の知の拠点形成―離島高専の教育研究と離島の振興・活性化― 平成 29 年度　成果報告書

担当教員	学部・職名・氏名	電子制御工学科・教授・吉田　哲哉
事務担当者	所属・職名・氏名	総務課企画広報室・室長・増本　浩司
	電話番号	0846-67-3179
	Fax	0846-67-3009
	e―mail	koho@hiroshima-cmt.ac.jp

実施内容の写真

①「大崎上島お達者自慢」会場の様子

②骨密度測定の様子

③体内水分量測定の様子

④聞き取り調査の様子

■資料－5　外部評価結果（平成 29 年度事業に対する評価）

Ⅰ　評価の方法と結果

1　取組に対する個別評価

文部科学省に提出したCOC＋事業実施計画に基づき、4つの取組の16の事項について広島市立大学が自己評価を行い、その上で外部評価委員が4つの取組について個別評価を行う。

評価は、いずれも以下の5段階で行う。

ア　広島市立大学の自己評価

「s」 計画を大きく上回った実績である。

「a」 計画を上回った実績である。

「b」 計画に沿った実績である。

「c」 計画を下回った実績である。

「d」 計画を大きく下回った実績である。

イ　外部評価委員の評価

「S」＝5点　計画を大きく上回った実績である。

「A」＝4点　計画を上回った実績である。

「B」＝3点　計画に沿った実績である。

「C」＝2点　計画を下回った実績である。

「D」＝1点　計画を大きく下回った実績である。

2　総合評価の方法

ア（取組項目ごとの評価）

各委員による1～4の取組項目ごとの評価の点数（5～1）を一覧表にする（表1）。

表1の個別評価点と平均値を基に、項目ごとに意見の交換を行い（必要に応じて当局へ実施内容を確認）、委員会としての取組項目の評価点を決定する。

イ（総合評価点の集計）

取組項目ごとの評価点を、表2の評価比率に応じて加重平均（評点×評価比率の合計）した結果を集計する（表3）。

ウ（総合評価の決定）

イの集計結果もとに、委員会としての総合評価について意見の交換により最終的な確認を行い、表4の評価基準にあてはめて総合評価の記号とする。

エ（総評の作成）

広島市立大学の自己評価の総括を踏まえ、意見の交換を行い、その内容を集約して外部評価委員会の総評とする。

表1（取組項目ごとの評価）

取組項目	委員の個別評価点と平均値		委員会としての評価点
1　教育カリキュラムの整備推進	4	4.5	4.5
	4		
	5		
	5		
2　観光データベースの構築と活用	3	3.5	3.5
	3		
	4		
	4		
3　観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進	4	4.0	4.0
	4		
	4		
	4		
4　事業運営（実施体制の整備）	4	3.5	3.5
	3		
	3		
	4		

表2（評価比率）

取組項目	評価比率
1　教育カリキュラムの整備推進	35%
2　観光データベースの構築と活用	20%
3　観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進	35%
4　事業運営（実施体制の整備）	10%

表3(集計結果)

取組項目	評点(α) 委員会としての評価点	評価比率 (β)	α×β
1 教育カリキュラムの整備推進	4.5	35%	1.58
2 観光データベースの構築と活用	3.5	20%	0.70
3 観光振興を目的とした 教育研究事業の立案・推進	4.0	35%	1.40
4 事業運営(実施体制の整備)	3.5	10%	0.35
計			X 4.03

表4(総合評価の基準)

評価の基準値	総合評価の記号	
4.5<X	S	計画を大きく上回った実績を挙げている。
3.5<X≦4.5	A	計画を上回った実績を挙げている。
2.5<X≦3.5	B	計画に沿った実績となっている。
1.5<X≦2.5	C	計画を下回った実績となっている。
X≦1.5	D	計画を大きく下回った実績となっている。

Ⅱ 総合評価及び総評

評価の記号

A: 計画を上回った実績を挙げている。

総評

本 COC+事業は、広島広域都市圏及び尾道市の課題である人口流出を、観光資源の活用により改善することを目指し、「地域に愛着・誇りを持ち、地域に根付き、地域の発展に貢献する人材」を育成することを目的とし、平成 27 年9月に文部科学省の採択を受け、平成 31 年度までを事業期間として進めている。

初年度の平成 27 年度は事業の実施体制を整え、平成 28 年度の事業の本格的な展開を経て、平成 29 年度は事業の安定的な実施と改善に取り組んだ。

文部科学省に提出している「平成 29 年度大学改革推進等補助金調書」に記載した事業実施計画に関し、以下のとおり主な取組状況を確認し評価する。

1 教育カリキュラムの整備・推進

COC+教育カリキュラム「地域貢献特定プログラム」の科目数を 9 科目追加して全 23 科目に拡充し、延べ 1,167 人が履修した。プログラムの中心的な演習科目である「地域課題演習」を新規に開講し 6 つのテーマ(地域)において 60 人の学生が地域課題に取り組み、74%が地域への関心を高めた(教員も全教員の 1 割の 21 人が参加した)。新たに「地域再生論入門」「地域再生論」「観光情報学」を開講するとともに、平成 28 年度開講の「広島の観光学」についても履修学生数を増やし授業満足度を向上させた。プログラムの全学共通系科目 4 科目の受講後の科目別アンケートにおいて約 6 割から 9 割の学生が地域への関心を高め、地域志向マインドの醸成に効果があった。

参加校との単位互換を、6 校から 17 科目提供して開始し 3 校 7 名の履修があった。

事業協働機関であるマツダ㈱による寄付講座「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を新しく開講し、18 人が業界の第一線のデザイナーの指導を受けた。

FDSD 研修を 2 回開催し、参加校である広島経済大学の先駆的な地域教育プログラムの実践方法等を研修した。

本学のインターンシップの受入れ企業数、参加学生数のいずれも増加した。

以上のとおり、教育カリキュラムを拡充し学生の地域への関心を高めたこと、また、インターンシップの参加者数等を増加させたことから、本項目については計画以上に進展したと評価する。

2 観光関連データベースの構築

平成 29 年度においてデータベースの構築を概ね終了した。コンテンツは観光地施設、イベント、パンフレット、画像、音声、SNS(ブログ・ツイッター・YouTube)であり、総数約 60 万件を集積した。このデータベースを用いて、「観光情報学」の講義での活用や、「地域課題演習」での学生による行動情報の収集を行った。実用的な調査として、しまなみ海道での観光サイクリストの行動情報の収集や岩国市での観光客の動向調査を実施し、データベースに登録した。

また、平成 30 年度における公開・運用の準備として操作マニュアル等の作成を行った。

以上のことから、本項目については概ね計画に沿って実施したと評価する。

3 観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進

学生による芸術作品の制作展示により観光振興や活性化を行うアートプロジェクト「広島ニュートラベル」を、参加校や自治体と協働して、実施地域を5地域に拡大して 10 件のプロジェクトを展開し、延べ 3,253 人の来場者があった。

地域での教育研究事業を効果的に進めるため、学生や教員の活動の拠点として、広島市中区基町において、新たに空き店舗を学生が改修し展示交流スペース「M98〈join〉」を設けた。廿日市市宮島においては町家を補修した「サテライトハウス宮島」の開設記念展を開催し(6 月)、本格的な活用を開始した。

参加校による協働研究事業を進め、8 校において観光に関する調査、地域講座の開催、地域活性化や支援に関する活動を実施した。また、参加 6 大学と比治山大学が合同して、広島地域では初めての観光に関する学生の研究・活動発表会を開催し連携を深めた(参加教員・学生 89人)。

学内の研究資金 COC+研究枠や社会連携プロジェクトにより、教員の地域研究の促進や社会貢献活動への支援を行った。

新たに高校生の地域内進学を促進するサテライト講座を柳井市において開講した。

以上のとおり、アートプロジェクトを拡充して多くの参加者があったこと、また、参加校との観光に関する新たな協働事業を実施したことから、本項目については計画以上に進展したと評価する。

4 事業運営(実施体制の整備等)

事業協働機関として(一社)しまなみジャパン(尾道市)が新たに加わり、全 67 機関となった。また、事業の一部を協力する大学として比治山大学が参加した。

COC+フォーラムを平成 30 年 1 月に開催し 90 人が参加し「関係人口」をキーワードに若者と地域との柔軟な関わり方について考える機会とした。

協働協議会の全体会議や連絡会議、教育プログラム開発委員会を開催するとともに、学内において、学長も加わった事業運営部会や事業別のワーキング会議など数多く運営し円滑に事業を進めた。担当する教員について、事業協働地域調整担当、教育研究担当など 6 教員による推進体制を継続した。

専用ホームページによる情報発信、ニュースレターの発行なども適宜行った。

以上のことから、本項目については概ね計画に沿って実施したと評価する。

以上のとおり、平成 29 年度においては、平成 28 年度での取組内容の基盤づくりを踏まえて事業を安定的に推進するとともに、従前の課題を解決しながら積極的に事業の改善や新しい企画に取り組んだ。特に、事業の重要な柱である「教育カリキュラムの整備・推進」と「観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進」において、事業内容を拡充して実施した。こうした、当初計画の着実な実施及び付加的な実施により、平成 30 年度以降の取組において、さらに事業全体の熟度を高めることに弾みを付けたと評価する。

以上

Ⅲ　取組項目別評価

H29 年度実施計画			公立大学法人広島市立大学による自己評価		外部評価委員会の評価
			記号	評価理由等	記号（SABCD）
取組1 **教育カリキュラムの整備・推進**	事項 ①	**【地域貢献特定プログラムの実施】** 4 月～3 月 平成 27 年度に策定した COC＋教育プログラム（地域貢献特定プログラム）の「広島を知る」科目を平成 28 年度に引き続いて実施。また、平成 29 年度は、「広島を知る」科目の「地域再生論入門」、「広島を感じる」科目の「地域課題演習」、「広島を問う」科目の「地域再生論」、「観光情報学」「アートマネージメント概論」を新たに実施する。加えて「非営利組織論ⅠⅡ」、「交通論」、「スポーツ文化経営論」、「フィールドワーク論」、「経営史」、「造形応用研究Ⅰ」を実施する。 さらに、平成 30 年度開講の「広島を問う」科目の「地域実践演習」等の開講準備を行う。	a	（1）地域貢献特定プログラムの拡充と科目開講 本COC＋の教育カリキュラムである地域貢献特定プログラムは、「広島を知る」「広島を感じる」「広島を問う」「広島に挑戦する」という4つのステップを、全学共通系科目や専門教育科目において学習できるよう編成している。プログラムの科目数を平成 29 年度において 14 科目から 23 科目に拡充した。 平成29年度の実施内容は次のとおり。 「広島を知る」科目では、新たに「地域再生論入門」を開講し、人口減少に対応した地域づくりなど、地域再生の最新の動向と方法論について学習させた。このほか「広島の産業と技術」「広島の観光学」「ひろしま論」など計 6 科目を開講した。 「広島を感じる」科目では、新たに「地域課題演習」を開講し、6 つの市町での演習テーマに 60 名が参加し、現地での活動や考察を通じて地域の特性や課題についての理解を深めた。 「広島を問う」科目では、新たに「観光情報学」を開講し、情報学の観点から観光を捉える基礎を学ばせ、観光関連データベースを用いた演習を実施した。また、新たに「地域再生論」を開講し、地域再生のアイデアをグローバルな視点を交えて学習させた。このほか「非営利組織論」「フィールドワーク論」など計 10 科目を開講した。 以上の 17 科目に延べ 1,167 名の受講があり、履修後に地域への関心度を聞いたアンケート結果では、関心が「非常に高まった」「高まった」と答えた学生が「地域課題演習」では 74%、「地域再生論入門」では 89%となるなど、地域志向マインドの醸成に一定の成果があった。 （2）平成 30 年度の開講準備 平成 30 年度の新規科目である「地域実践演習」について、広島市とその周辺地域を対象にした地域再生や観光振興など地域の課題解決や、あるいは地域性をテーマとして、PBL（課題解決型学習）等の手法により実践的な演習を行うという方針のもと、各学部において、担当教員の決定とシラバスの検討を進めた。設定した演習数は、国際学部2、情報科学部4、芸術学部1（専攻数 3）となった。 以上、COC＋の教育カリキュラムにふさわしい内容にすべく、科目群を拡充し、新規科目を含めた開講科目により、学生の地域志向マインドの醸成に資するよう十分に意を用いて実施したことから、「a」と評価した。	取組1　①～⑥について A （4.5）
	②	**【参加大学との単位互換の実施】** 4 月～3月 参加校間において締結した、地域志向科目の単位互換に関する協定に基づき、単位互換を実施する。	b	参加校による単位互換協定に基づき、初年度となる平成 29 年度は、6 校から提供された地域志向科目 17 科目に対して、尾道市立大学、広島経済大学、安田女子大学の 3 校から 7 名が履修した。履修科目は広島経済大学の「広島を学ぶ」、広島市立大学の「創作と人間」「観光情報学」であり、「観光情報学」は広島経済大学からの講師派遣を得て実施した。 また、平成 30 年度の科目を増やすための調整を行った。 計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	

	③	**【全学COC＋研修会の開催】** 9 月、3 月 本学の全教職員を対象とした本事業の実施に関するファカルティ・ディベロップメント(FD)として、全学 COC＋研修会を(2 回)開催する。	b	第 1 回を平成 29 年 11 月 30 日に開催し、68 名の参加があった。 第 2 回を平成 30 年 2 月 19 日に開催し、41 名の参加があった(参加校関係者を含む)。 FDSD 研修として実施し、いずれも地域志向教育の方法論について内容とした。第1回は本学で初めて実施した「地域課題演習」をテーマとし、実施結果の詳細な分析を紹介するとともに、6 つのテーマの担当教員から講義や現地活動の進め方や方法、その成果と課題を報告し、共有した。第 2 回は参加校である広島経済大学の、全国的にも先駆的な「興動館教育プログラム」をテーマとし、社会プロジェクトに学生が自主的に取り組み、社会人基礎力やアクティブラーニングに成果を挙げている仕組みや教育方法を具体的に学んだ(講師は広島経済大学濱田敏彦教授)。 研修会に出席できなかった教職員のため、研修会の内容を学内ウェブサイトに動画で公開し、各自でネット受講ができる体制を整えた。 開催時期を除けば、予定どおり実施したことから、「b」と評価した。	
	④	**【インターンシップの実施】** 8 月 COC＋参加企業・自治体へのインターンシップを実施	a	事業協働機関への働きかけを強化し、本学におけるインターンシップの受け入企業・団体数が、平成 28 年度の 70 機関に比べ、平成 29 年度は 163 機関に増加した。参加学生数についても、平成 28 年度の 50 名から、平成 29 年度は 58 名に増加した。 受け入れ企業・団体数、参加学生ともに増加したことから、「a」と評価した。	
	⑤	**【新たなインターンシップ事業の検討】** 4 月～12 月 新たに地域企業を知る機会を増やすための取組等について検討し、平成 30 年度実施の準備を行う。	a	平成 28 年度から事業協働機関である中国経済連合会の人材育成専門部会において、企業関係者と地元企業におけるインターンシップを活用した学生の地元定着意識の醸成を図る方策について検討を進めている。平成 29 年度にその具体化として、企業経営者と学生が懇談を通じて働く意義を考える企業訪問事業を開始した。受け入れ企業 17 社に、6 大学から 83名の参加があった。その結果を踏まえ平成 30 年度に向け参加校や学生を拡大するための協議を行った。 また、本学で新たに実施した「地元企業経営者パネル討論会」において、参加学生と企業経営者との活発な意見交換があり、地域での企業経営の意義と課題について理解を深めた。企業経営者は 4 名を招き、参加した学生・教員は 73 名であった。 検討した事業を前倒しで実施し、インターンシップの強化に取り組んだことから、「a」と評価した。	
	⑥	**【寄付講座の実施】** 4 月～3 月 新たな寄付講座を実施する。	a	広島が世界に誇れるモノづくりの拠点となる人材育成を目指し、「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を開講し、学生 18 名が履修した(最終プレゼンテーションまで進んだ学生は 12 名)。 これは、芸術学部を持つ本学ならではの取り組みであり、学生は専攻を超えて実践的な学びや制作に臨んだ。学生は地元メーカーのトップデザイナーからの指導を受け、ものづくりの精神やグローバルな視野、車のデザインの現場学習などにより創造・表現の方法論を学んだ。 ゼミの最終日となった平成 29 年9月8日、本学芸術資料館において、学生が成果作品についてプレゼンテーションを行い、アドバイザリーボードである前田育男客員教授(マツダ㈱常務執行役員)から講評を受けた。 地域を代表する企業と協働し、本学の特長を活かした寄付講座により、学生の実践力を育成し充実した成果を挙げたことから、「a」と評価した。	

H29 年度実施計画			公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価
			記号	評価理由等	記号（SABCD）
取組2 **観光関連データベースの構築と活用**	事項 ⑦	**【データベースの試験的な活用】** 4 月～3 月 平成 28 年度に引き続き、参加自治体等の協力を得ながら、観光地施設等の観光関連データを入力。合わせて観光関連データベースを「観光情報学」の講義・実習等で活用する。	a	SNS 情報を中心に観光関連データを収集し、平成 29 年度中に約 40 万件追加登録した。平成 29 年度末現在で総数約 60 万件の観光関連データの登録が完了している。 登録済みの観光関連データの利活用について、平成 29 年度科目の地域課題演習や観光情報学での演習素材として試用を行い、運用上の課題の洗出しを実施した。平成 30 年度以降の利用改善や素材収集に生かすための準備を行った。 また、実用的な調査として、しまなみ海道での観光サイクリストの行動情報の収集や岩国市での観光客の動向調査を実施し、データベースに登録した。 約 40 万件を追加登録し、計画にはなかった尾道市や岩国市での実用的な調査を行ったことから、「a」と評価した。	取組2 ⑦・⑧について B (3.5)
	⑧	**【データの閲覧開始】** 1 月 参加校・企業・自治体に対するデータベースの閲覧を開始する。	c	学内での活用（地域課題演習・観光情報学等）を通じて運用案を検討し、平成 30 年度公開に向けて、利用する事業協働機関（自治体・企業・参加大学）へのマニュアルやセキュリティ規定の試作や、事業協働機関向けのユーザ ID/Pass の配布準備を行った。 平成 29 年度中の公開には至らなかったことから、「c」と評価した。	

H29 年度実施計画			公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価
			記号	評価理由等	記号（SABCD）
取組3 **観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進**	⑨	**【COC＋特定研究等の実施】** 4 月～3 月 学内特定研究費（大学資金）「COC＋特定研究」を公募し研究を実施するとともに、学内事業（大学資金）「社会連携プロジェクト」において「COC＋関連プロジェクト」を公募しプロジェクトを実施する。	a	「COC＋特定研究」について 2 件の研究テーマを採択し、「社会連携プロジェクト」について 5 件の事業を採択し、また、学生による地域貢献事業「市大生チャレンジ事業」を2件実施した。 「COC＋特定研究」は、「アートプロジェクトの実施と人材育成の基盤研究」、「瀬戸内海のインバウンドを目指す地域活性化プロジェクト」。「社会連携プロジェクト」は、「尾道市立大学と連携した空き家再生事業」、「しまなみ観光サイクリストの行動情報収集」など。「市大生チャレンジ事業」は、「学生を対象としたビジネスコンテスト」、「ヒロシマピースキャンプ」。実施されたテーマはいずれも学生の地域での活動を伴ったものとなっている。 本学の自己資金により平成 27 年度に創設した制度の趣旨が浸透し、年度を追うごとに意欲的な研究や社会連携活動を進めてきていることから、「a」と評価した。	取組3 ⑨～⑭について A (4.0)
	⑩	**【サテライトハウス宮島の運用】** 4 月～3 月 平成 28 年度に廿日市市宮島に開設した広島市立大学COC＋宮島教育研究施設（通称「サテライトハウス宮島」）を拠点とした活動と管理運営を行う。	a	廿日市市宮島町の歴史のある町家建築を一部改装し、本学と参加校の学生・教員が宮島での教育研究活動を行う施設として「広島市立大学COC＋宮島教育研究施設(通称、サテライトハウス宮島)を平成 28 年 10 月に開設して施設の整備を行い、そのお披露目を兼ねた芸術展示を平成 29 年 6 月に開催し、本格的な運用を開始した。 平成29年度の主な活用状況は次のとおりとなった。 芸術展示(開設記念展など)4回、芸術学部の現地演習2回、外国人観光客向けのイベント2回、市民向け講座（広島工業大学土曜講座）1回、観光に関する学生の研究・活動発表会現地視察1回、日本都市計画学会視察 1 回を実施した。その他、大学の地域活動の事例としてNHKのテレビ番組により全国に紹介された。 本学の芸術展示や演習にとどまらず、参加校や学会での活用、観光客や地域向け行事など多彩な運営を行ったことから、「a」と評価した。	
	⑪	**【アートプロジェクトの実施】** 4 月～3 月 アートプロジェクトを広島市中心部と宮島に加えて、新たに尾道市・安芸太田町・北広島町において実施する。	a	統一テーマを「広島ニュートラベル」とし、瀬戸内海や都市部、中山間地の各地域において、アート活動により人をいざない交流を進めることをコンセプトに、芸術学部の全 10 専攻の学生・教員約 140 名が参加し、参加大学や地域と協働しながら、作品制作・展示・ワークショップ、地域活動等を実施した。新たな地域として北広島町、安芸太田町、尾道市を加えた5地域で行った。 10 プロジェクトの概要(テーマ/地域/内容/専攻)は以下のとおりであり、プロジェクト全体を通して、作品の制作・展示、交流等に参加した住民の数は 3,258 人となった。 ①宮島双六プロジェクト/廿日市市/板目木版を用いた新デザインの観光双六制作/油絵専攻 ②宮島ものづくり産業復興プロジェクト/同上/後継者不足の宮島ろくろの技術習得など/漆造形 ③宮島染織プロジェクト/同上/宮島に平和の明かりをともす染織造形の制作/染織造形 ④基町プロジェクト/広島市/高齢化した都心の住宅団地の活性化、コミュニティデザイン/共同（広島修道大学、安田女子大学と協働） ⑤観光客に伝えたい広島/同上/新しいイメージの広島のビジュアルイメージを伝える/視覚造形 ⑥広島ピースプロジェクト/同上/NHK 広島放送局と協働し「ヒバクシャからの手紙」の映像を制作/映像メディア造形 ⑦筏津プロジェクト/北広島町/筏津芸術村に滞在し現地の素材で立体作品制作/彫刻・立体造形 ⑧たたらプロジェクト/安芸太田町/たたら製鉄文化を学習し鉄の作品を制作/金属造形 ⑨尾道プロジェクト/尾道市/アートによる空き家再生/現代表現（尾道市立大学と協働） ⑩日本画風景プロジェクト/同上/尾道の風景をテーマに街の魅力を伝える/日本画専攻 芸術学部をあげた取組として、実施地域を積極的に拡大し、地域との連携や協力により活動を進め、一般参加者も多く集めたことから、「a」と評価した。	

	⑫	**【参加校による協働研究事業】** 4 月～3 月 参加校による協働研究事業を平成 28 年度に引き続いて実施する。	b	参加校 8 校が、学部構成や教育方針などそれぞれの強みを活かしながら、COC＋の対象地域において観光調査研究、住民講座、地域交流・支援活動等を行い、多くの学生を地域活動に向かわせる事業を展開した。 平成 29 年度の実施状況は以下のとおり(校名/地域/テーマ/実施形態)。 ①広島大学/廿日市市/世界遺産宮島を構成する弥山原始林の価値を確認し、歴史的・文化的資源と一体となった保全・活用を考える/調査研究 ②尾道市立大学/尾道市/アートプロジェクト(空き家再生)の実施/地域デザイン(広島市立大学と協働) ③広島経済大学/廿日市市・上関町等/学生による観光資源等の再発見と発信/調査研究 ④広島工業大学/廿日市市/宮島土曜講座/市民向け講座 ⑤広島国際大学/安芸太田町・呉市/中山間地域と島しょ部との交流による地域活性化プロジェクト/地域支援 ⑥広島修道大学/広島市/基町プロジェクト「もとまちカフェ」/地域交流(広島市立大学と協働) ⑦安田女子大学/同上/基町プロジェクト「グローカルキッチンプロジェクト」/食文化交流(広島市立大学と協働) ⑧広島商船高等専門学校/大崎上島町/高齢者健康調査/地域支援 計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	
	⑬	**【参加校との新たな協働事業の実施】** 12 月 新たに観光に関する学生の研究・活動発表会を実施する。	a	学生の観光に関する学習・研究意欲を高め、地域を志向するマインドやネットワークの醸成を図るため、本学が企画し、COC＋の参加6大学と比治山大学(協力校)が合同で実施した。観光に関連する学生の研究や活動に関する広島地域での初めての大学間交流事業となった。開催は平成 29 年の 12 月 16 日と 17 日の2日間、廿日市市の広島経済大学の宮島セミナーハウス成風館を会場とし、参加した学生は 65 名、教員は 24 名であった。 発表されたテーマは 14。大学ごとにテーマ設定や地域への関わり方、分析や考察の方法に特徴があり、多彩なプレゼンテーションが行われた。併せて宮島の景観保存の歩みなどの現地講座を開催した。参加学生のアンケートとして、94%が「他大学との交流により学習・研究上の刺激を受けた」、91%が「広島地域の関心を高めた」と回答した。 観光をテーマに、充実した教育研究交流が実施できたことから、「a」と評価した。	
	⑭	**【サテライト講座の実施】** 9 月～12 月 新たに参加自治体と協働してサテライト講座(市民向け公開講座)を実施する。	b	事業協働地域の若い世代の人口流出を防ぎ、地元への定着をいかに図るかが課題となっている。その対策の一つとして、高校生の地元大学への関心を高めるための事業を行うことで、地域内への進学の道を示し、ひいては地域内での就職につながるものとして企画し実施した。 対象は柳井市広域圏の 7 校の高校生。講座は平成 29 年 10 月 14 日・21 日・28 日の 3 回実施。内容は、広島市立大学の教員による「情報科学とサウンドデザイン」、「統計学を知る意味」、「芸術による新しいまちづくり」。高校生・教員 32 名の参加があった 併せて、広島地域の各大学の学部等の紹介を行い、地域内進学を促した。 計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	

H29 年度実施計画			公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価
			記号	評価理由等	記号（SABCD）
取組4 **事業運営（実施体制の整備等）**	事項 ⑮	**【ニュースレターとホームページによる広報】** 7 月･12 月･3 月 事業広報のためニュースレターを発行する（3 回）。 4～3 月　平成 27 年度に開設したホームページを更新する。	b	ニュースレターの発行については、平成 29 年 8 月に第 6 号（地域課題演習、アートプロジェクトの紹介等）、平成 30 年 1 月に第7号（観光をテーマに大学合同の発表会開催等）、平成 30 年 3 月に第 8 号（観光関連データベース等）をA4 版4ページで印刷し配布した（各 3000 部）。 新たに、事業活動紹介パンフレット「地域に目覚める―地域に貢献する人材の育成」を 5,000 部印刷し配布した。また各事業の実施にあたりチラシやポスターなどの印刷物を作成した。 COC＋ホームページを随時更新し情報提供に努め、平成 29 年度の総閲覧数は 1 万 7609 件であった。 計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	取組4　⑮～⑲について B (3.5)
	⑯	**【協働協議会の開催】** 1月 COC＋事業協働地域協議会を開催（1 回）する。	b	事業協働協議会の会議を平成 30 年 1 月 29 日に、広島市総合福祉センターにおいて開催した。協議内容は、平成 29 年度事業の実施状況、平成 30 年度の事業計画案、平成 28 年度の外部評価結果の報告であり、事業の進捗状況と今後の展開等について情報を共有し意見の交換を行った。参加は 31 の協働機関から 48 名（平成 28 年度は 37 の協働機関から 65 名）であった。 事業協働機関に新たに一般社団法人しまなみジャパンが加わり、「しまなみ観光サイクリストの行動情報収集」を行った。協働機関の総数は67機関となったこと、事業の一部を協力する大学として、比治山大学が参加し、現代文化学部の学生・教員が「大学連携による学生の観光研究・活動発表会」において協働したことを報告した。 計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	
	⑰	**【COC＋フォーラムの開催】** 1 月 参加校・企業・自治体に呼びかけ COC＋フォーラムを開催する（1 回）。	b	「COC＋フォーラム 2018」を平成 30 年 1 月 29 日に、広島市総合福祉センターホールにおいて開催し、一般を含めた 90 名の参加があった（平成 28 年度は 174 名）。 内容は「関係人口をつくる―定住でも交流でもないローカルイノベーション」（講師はローカルジャーナリスト田中輝美氏）、COC＋の事業報告として本学社会連携センター教員による「COC＋アートプロジェクト　2016-2017」及び「観光関連データベースの構築と活用について」。 計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	
	⑱	**【担当する教員等の雇用】** 4 月～3 月 事業の調整、実施、進行管理にあたる COC＋を担当する教員 6 名を継続雇用する。	b	平成 28 年度に引き続いて、COC＋推進コーディネーター（特任教授）1名、教育研究担当特任教授 1 名、事業協働地域調整担当特任准教授 1 名、教育研究担当特任助教1名、観光関連データベース担当特任助教 1 名、アートプロジェクト担当特任助教 1 名を雇用し、全体で 6 名の体制で事業を推進した 計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	
	⑲	**【評価委員会による評価の実施】** 6 月 COC＋評価外部委員会を開催し、平成 28 年度事業の評価と評価報告書を作成	b	COC＋外部評価委員会を平成 29 年 7 月 5 日に開催し（神戸市外国語大学名誉教授・船山仲他委員長ほか委員 4 名が出席）、平成 28 年度事業の実施状況について、「A　計画を上回った実績を挙げている」との評価を受けた。 また、平成 28 年度の事業報告書を作成し、外部評価委員会に提出した。 ほぼ計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	